

## 2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	適応都市検討小委員会	主 査 名：渡邊浩文 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会	委員長名：中村 勉
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>気候変動適応はエネルギー消費だけでなく、建築構造や災害対策に対しても考慮する必要がある。更に将来予想される社会変動への対策と適応も急務の課題となっている。これらの問題に能動的に対応する都市をここで「適応都市 (Adaptive City)」と定義する。本小委員会では、この適応都市の概念整理を行い、将来に起こり得る様々な問題の対応策を取りまとめることを設置目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度 (2015 年度)：小委員会の体制を整え、将来に起こりうる課題の抽出を行うとともに、「適応都市 (Adaptive City)」概念整理を行う。</li> <li>・2 年度 (2016 年度)：前年度に抽出された課題に対して、適応策のプロトタイプの作成を行うとともに、「適応都市 (Adaptive City)」を定義する。</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>渡辺浩文 (東北工業大学), 大岡龍三 (東京大学), 飯塚悟 (名古屋大学), 竹林英樹 (神戸大学), 浅輪貴史 (東京工業大学), 足永靖信 (国総研), 近藤明 (大阪大学), 成田健一 (日本工業大学), 鳴海大典 (横浜国立大学), 萩島理 (九州大学), 持田灯 (東北大学), 吉田伸治 (福井大学), 菊本英紀 (東京大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>①気候変動モデリング WG 将来気候変動を予測した GCM の解析結果を、RCM を用いてダウンサイズすることにより、都市レベルの様々な環境・災害問題に活用できる気象データの作成</p> <p>②適応都市設計ガイドライン WG 将来の気候変動・社会変容を踏まえ、それらに適応した都市 (適応都市 (Adaptive City)) の設計ガイドラインの検討</p>	
2016 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/q-000/q040-12.html">http://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/q-000/q040-12.html</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適応都市の概念整理を主目的に各種情報収集を実施した</li> <li>2. 傘下 WG (適応都市設計ガイドライン作成WG、気候変動モデリング WG) における議論の把握と意見交換</li> <li>3. 適応都市の概念検討 (公開勉強会の開催)</li> </ol> <p>上記により、当初の活動計画に対して成果が得られたと考えられる</p>
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 都市気候学的視点からの将来予測手法の一層の高度化</li> <li>2. 本会の関連他分野との協働を推進する取り組み</li> </ol>